

※ 解答は、《解答らん》に書きましょう。

次は、雨宮さんがまとめたレポートです。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【レポート】

美しい日本の歌

雨宮しずか

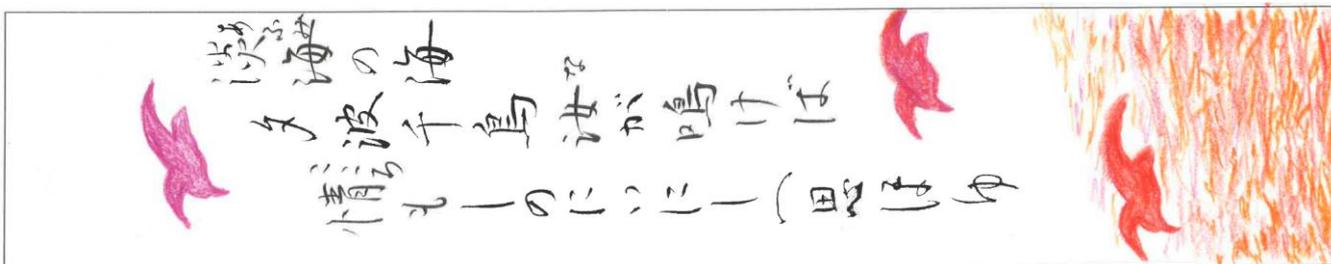
《きつかけ》

兄の机の上にあった短冊の下書きを見て、三つの短歌が、それぞれどんな内容なのか気になったから。

《調べ方（まとめ方）》

兄が使っている資料集で、三つの短歌の「①読み方、②作者、③短歌が収められている歌集、④現代語訳」を調べ、「⑤考えたことや感想など」を書く。

《調べたこと・考えたこと》



A 淡海（あふみ）の海 夕波（ゆふなみ）千鳥（ちどり）が鳴けば 情（なさけ）もしのこに いにしき思（おも）ほゆ

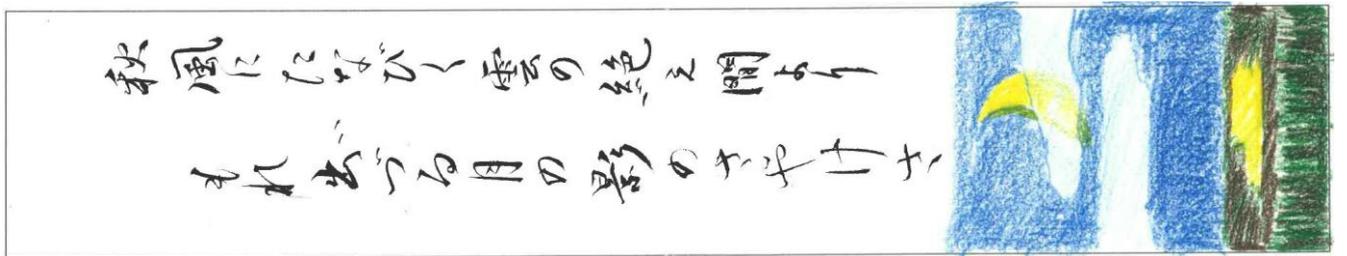
- ① おうみのうみ ゆうなみちどり ながなげば こころもしのこに いにしきおもほゆ
- ② 柿本人麻呂（かきのもとのおとまる）
- ③ 万葉集（まんようしゅう）
- ④ 夕焼けにそまつた、波立つ海（湖）の上を飛ぶ鳥よ。おまえの鳴き声を聞いていると、さびしい気分になって、昔のことを思い出してしまうよ。
- ⑤ 作者である柿本人麻呂は、今から千三百年以上も昔、飛鳥時代の人です。現在では「近江」と書く「おうみ」は、滋賀県の古い呼び名の一つです。「滋賀県の海」といえば、もちろん琵琶湖です。海のように広い琵琶湖の上を白い鳥が数羽飛んでいるのを見て、ものさびしい気分にあふんでいる作者の様子が目に浮かびます。夕日を浴びて、かがやく湖面。風にゆれ、上下しながら飛ぶ赤くそまつた鳥。わたしはまだ琵琶湖に行つたことはありませんが、この歌のような美しい光景は、今でも見ることもできるのではないかと思います。

（次のページに続く。）



B 世中に 絶えて桜の なかりせば 春の心は のどけからまし

- ① よのなかに たえてさくらの なかりせば はるのころは のどけからまし
- ② 在原業平（ありわらのなりひら）
- ③ 古今和歌集（こきんわかしゅう）
- ④ もしこの世の中に桜がなかったなら、春をのどかな気分で過ごすだろうに……。
- ⑤ 平安時代に作られた歌です。「春になると、人々の気持ちがおだやかでなくなるのは、桜の花の様子が気になるからだよ。」「美しい桜を、もっと長く見ていたいなあ。」「しばらくの間、風の吹かない日が続いて欲しい。」この歌をくり返し読んでみると、当時の人々の声が聞こえてきそうです。



C 秋風に たなびく雲の 絶え間より もれ出づる月の 影のさやけさ

- ① あきかぜに たなびくくもの たえまより もれいずるつきの かげのさやけさ
- ② 藤原顛輔（ふじわらのあきすけ）
- ③ 新古今和歌集（しんこきんわかしゅう）
- ④ 秋風に吹かれ、横長にのびてただよう雲の切れ間から、もれてくる月の光の、なんとすみきつて明るいことだろう。
- ⑤ 三つの歌の中で最も現代に近い、鎌倉時代の歌です。「影」という言葉は、「川面に映った月の影」のようにも使われますが、光そのものという意味をもちます。三つの中で一番分かりやすく、絵にしやすい短歌だと感じました。兄は、三日月をイメージしていますが、わたしは、より光の強い満月を思い浮かべました。

《まとめ》

今回調べた短歌の中で、最も印象に残ったのは（ ）の歌です。作者は、反対の状態を示し、そのときの気持ちを予想する表し方をしていました。対象が気になって仕方がないという思いが強く伝わってくる、みごとな表し方だと感じました。

【三つ一挙】

一 【レポート】のAからCまでの短歌の中で、最も古い歌を一つ選んで、その記号を書きましよう。

二 【レポート】の()に当てはまる短歌を、AからCまでの中から一つ選んで、その記号を書きましよう。

三 次の(1)、(2)のそれぞれの()に入る下の句(「五音・七音・五音・七音・七音」のうち、「七音・七音」に当たる部分)を、あとの条件に合わせて書き、短歌を完成させましよう。

(1) 校庭に光る物体近づくと()

(2) 東京にオリンピックがやってくる()

〈条件〉

- 上の句(「五音・七音・五音」に当たる部分)の内容と関連づけること。
- 「七音・七音」のリズムを大切にすること。ただし、一方が「八音」になってもよいこととする。※八音の例…「いにしく思ほゆ」、「もれ出づる月の」

シート 28 解答らん

第 学年 組 番 名前

一

--

二

--

三

(1)
(2)

【四〇一〇】

シート 28 正答例

- 一 A
- 二 B
- 三 (省略)